アレルギー症状への対応の手順

アレルギー症状が疑わしい

原因食物を食べた（可能性を含む）

原因食物に触れた（可能性を含む）

発見者が行うこと　A 緊急性の判断と対応A-1-①参照

緊急性が高いアレルギー症状はあるか？

３０秒以内に評価

顔色が悪い　呼吸が苦しい　意識がおかしい

ひとつでもある

ひとつもない

校内緊急体制へ

●助けを呼ぶ、人を集める

●子どもから目を離さない、ひとりにしない

B 緊急連絡体制

５分以内に評価　A 緊急性の判断と対応A-1-②参照

【全身の症状】
- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくい または不規則
- 唇や爪が青白い

【呼吸器の症状】
- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳込
- ゼーゼーする呼吸

【消化器の症状】
- 持続する強い お腹の痛み
- 繰り返し吐き続ける

ひとつでもある

A 緊急性の判断と対応A２参照

①ただちにエピペン®を使用する

C エピペン®の使い方

②救急車を要請する（１１９番通報）

D 救急要請のポイント

③その場で安静を保つ

④エピペン®を使用し、１０～１５分後に症状の改善がみられない場合、２本目のエピペン®がある場合は使用する

⑤呼びかけても反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う

F 心肺蘇生とＡＥＤの手順

ひとつもない

①保健室などに移動させる

②内服させる

③症状チェックシートで観察を続け、症状の出現があれば、Ａ－２へ

E 症状チェックシート